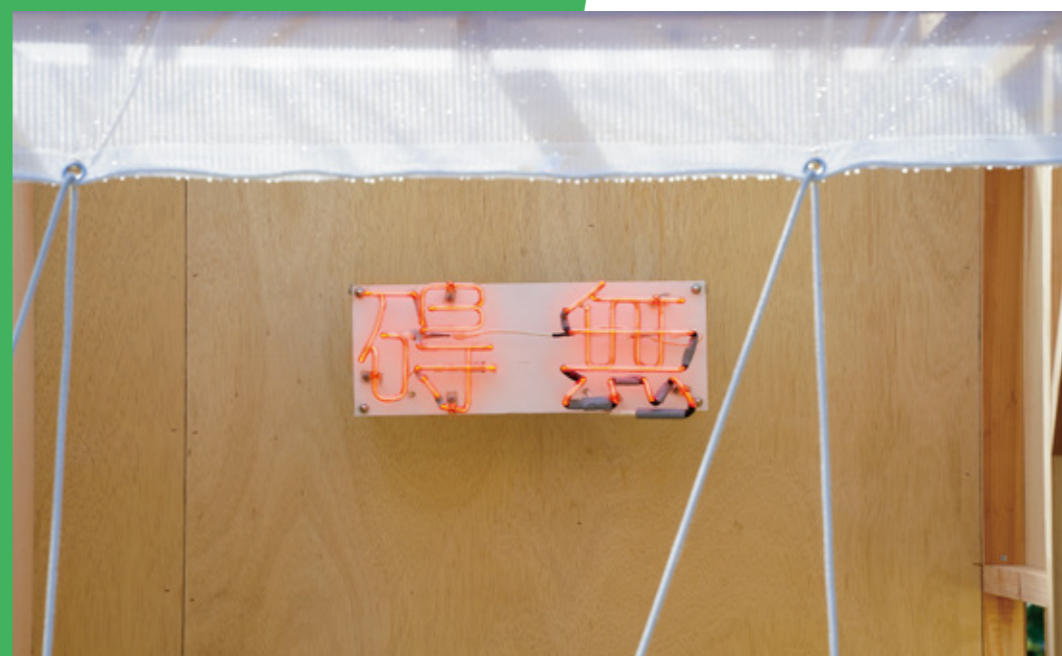


障害の茶室Ⅷ -河童の庭-

記録集



目次

CONTENTS

ごあいさつ / 活動の流れ	2
ステートメント	3
「障碍の茶室」について 和田千秋 + 坂崎 隆一	
「河童の庭」について 飯田 日菜子 + 上 智寛 + 高取 英地	
これまでの障碍の茶室	4
作家プロフィール	5
準備	6
本番	10
うつわ、車椅子、お菓子について / SNS 発信	13
河童面	14
関係者コメント	20
「エンタメがアートに変わるとき」 花田 伸一	22



ごあいさつ

INTRODUCTION

佐賀大学芸術地域デザイン学部では講義の中のいちプロジェクトとして石橋文化センターにおいてさまざまな企画をおこなってきました。

今回は美術家の和田千秋さんと坂崎隆一さんをお招きし、彼らの「障碍の茶室」プロジェクトを、佐賀大学の学生が考えたテーマで実施しました。坂崎さんが睡蓮とバラの庭に茶室を設置し、石橋文化センターアートフェスティバル期間中の5日間、学生と和田さんがお点前をおこないました。

これは、その活動の様子をまとめた記録集となっています。5日間のお茶会とそこに至るまでの軌跡を、多くの方に知っていただくと幸いです。

佐賀大学芸術地域デザイン学部 3年
飯田日菜子 + 上智寛 + 高取英地

活動の流れ

SCHEDULE

2023 年

4月21日(金)	石橋文化センター訪問
5月19日(金)	和田千秋氏アトリエ訪問
6月30日(金)	坂崎隆一氏とともに現地下見
7月21日(金)	芥川龍之介展リサーチ
8月17日(木)	キックオフミーティング
8月27日(日)	和田千秋氏アトリエ訪問
9月19日(火)	車椅子にて現地下見
10月3日(火)	佐賀大学茶道部を見学
10月18日(水)	車椅子レンタルに関してきさく工房と打ち合わせ
10月19日(木)	スタッフ説明会(対面)
10月22日(日)	スタッフ説明会(オンライン)
10月29日(日)	茶室設営見学
10月30日(月)	スタッフ説明会
10月31日(火)	スタッフ説明会・茶道部訪問
11月1日(水)	内覧会
11月3日(金祝)	アートフェスティバル開幕(～11/19)、茶会初日
11月4日(土)	茶会2日目
11月11日(土)	茶会3日目
11月18日(土)	茶会4日目
11月19日(日)	茶会最終日

2024 年

1月31日(水)	記録集発行
----------	-------

ステートメント

STATEMENT

障碍の茶室 VIII - 河童の庭 -

和田千秋 + 坂崎隆一 + 佐賀大学芸術地域デザイン学部

「障碍の茶室」について（和田千秋 + 坂崎隆一）

まず、「障碍」は「しょうがい」と読み、「障害」と同じ意味です。戦前までは「障碍」の方が使われていて、戦後、当用漢字に「碍」の字が入らなかったため、同音の「害」の字を当てようになりました。元々、「障」「碍」の字ともに、「じゃまする・さまたげる」という意味で、「害」の「わざわい」のような悪い意味はありませんでした。われわれはマイナスイメージの「障害」をやめて、「障碍」の方を使っています。

では「障碍の茶室」とは何か？「障碍の茶室」とは、障碍を持つ方が参加するには不便だった茶室をバリアフリーにして「障碍者のための茶室」にする試みです。毎回、設置場所の条件は変わりますので、茶室はそのつど新しく造り直されます。伝統にとらわれない斬新なデザインの茶室は「障碍の茶室」の見どころの一つです。

そして、参加者全員（亭主も含む）が車イスを使用して茶会を行うのが「障碍の茶室」の特徴と言えます。ここでは、障碍を持つ方が普段参加しにくい本格的な茶会（大寄せ茶会ではなく）を楽しむことが出来るでしょう。

しかし、「障碍の茶室」は物理的な障碍を取り除くことだけを目的としているわけではありません。「健常者」と「障碍者」の間に横たわる心理的なバリアーも取り除いていくことを目指しています。

そのために重要となるのは、障碍を持たない方々の車イス体験です。少しの段差でも車イスの操作は難しいことや、周りから好奇のまなざしを受けることが分かるでしょう。ひと時の「障碍者」体験と言えるかもしれません。

また、皆が車イスを使うことで、はたから見て誰が「健常者」で誰が「障碍者」かが分かりにくくなります。一見したところ、皆が「障碍者」となるのです。

障碍をもたない方には、しばしの「障碍者」体験によって、茶会の間だけでも、障碍を持つ方々に思いを寄せていただければと思います。

「河童の庭」について（佐賀大学芸術地域デザイン学部 飯田日菜子 / 上智寛 / 高取英地）

8回目となる今回の「障碍の茶室」のテーマは「河童」です。久留米市には河童の伝説が多く残っています。河童というと緑色で頭に皿があり、人間や動物を川に引き摺り込む恐ろしい妖怪というイメージがあるかもしれませんが、実は地域によってその姿形や性質は異なっており、筑後川の河童は人々を水害から守ってくれるという言い伝えがあります。近年、全国各地で水害が多発しており、この茶会には水害からの復興と今後の被害の減少への願いを込めています。

また、今回の企画と同時期に久留米市美術館にて「芥川龍之介と美の世界」展が開催されますが、芥川の著書に『河童』があります。この作品に登場する河童も一般的なイメージとは異なっています。人はイメージにとらわれやすく、染み付いた考え方を取り払うのは簡単ではありませんが、この茶会ではあらゆる垣根を取り払い、作法を気にせず楽しむものです。自分がもし河童だったら、他の妖怪だったらと自由に発想してお面を作ってみてください。そして、美しい睡蓮の庭を眺めながらお茶を楽しんでいただけたらと思っています。

これまでの 障碍の茶室

HISTORY

「障碍の茶室」は2000年に美術家の和田千秋と茶人の中村海坂によってはじめられた茶会プロジェクト。第2回目から美術家の坂崎隆一が茶室の設計・制作として加わり、以後、この3人の協働により国内外で開催されてきた。毎回、それぞれの場所の特性に合わせてテーマや会場が設けられる。

2000年「障碍の茶室」

「ミュージアム・シティ・福岡・2000 -外出中-」

博多リバレイン / 福岡

2001年「障碍の茶室II -峠の茶会-」

「アートにであう秋 vol.3 もてなし / 障碍の茶室」

福岡県立美術館 / 福岡

2004年「障碍の茶室III -ガラスの天井-」

「第19回国民文化祭・ふくおか 2004 福岡大茶室」

西鉄ソラリアゼファ / 福岡

2006年「障碍の茶室IV -坑道を抜けて-」

「第21回国民文化祭・やまぐち 2006 彫刻展」

宇部市新天町 / 山口

2014年「障碍の茶室V -無碍-」

「釜山ビエンナーレ 2014 特別展 アジアン・キュレトリアル」

kiswire warehouse / 韓国・釜山



和田千秋 + 中村海坂 + 坂崎隆一《障碍の茶室V-無碍-》『釜山ビエンナーレ 2014 特別展アジアン・キュレトリアル』韓国・釜山、2014年

2019年「障碍の茶室VI -開かれた場所 / 開かれた茶室-」

太宰府天満宮 / 福岡

2022年「障碍の茶室VII -うらがわ茶会-」

行橋市増田美術館 / 福岡

2023年「障碍の茶室VIII -河童の庭-」

石橋文化センター / 福岡

作家 プロフィール

ARTIST PROFILE



和田 千秋 Wada Chiaki

1957年大分県生まれ、福岡県在住。九州産業大学芸術学部美術科卒業後1983年同研究科修了。長男が脳障害を負って産まれたため、一時制作活動を中断し子どもの機能訓練に専念。その後1992年から制作を再開し「障碍の美術」シリーズを発表している。主な展覧会に1994年「現代美術の展望ー'94 FUKUOKA 七つの対話・スタンスをめぐって」（福岡県立美術館）、1997年「水戸アニュアル'97 しなやかな共生」（水戸芸術館現代美術センター）、1999年「子どものための美術展'99 アート・スイート・ホーム」（広島市現代美術館）、2000年「Yume no Ato-Contemporary Art from Japan」（Haus am Waldsee / Berlin 他）、2019年「アカルイカテイ」（広島市現代美術館）など。



坂崎 隆一 Sakazaki Ryuichi

1967年熊本県生まれ、福岡県在住。1990～91年USIA（米国広報文化交流局）の招聘プログラムにて渡米。主な展覧会に2000年「佐賀町2000『ドキュメント佐賀町・定点観測1983-2000』」（佐賀町エキジビット・スペース / 東京）、2005年「長い長い箸のはなし」（福岡県立美術館）、2015年「あること」（福岡県立美術館）、2016年「歴史する！ Doing history!」（福岡市美術館）、「ЯЗЫКЪ ТОИ ОД」（沢田マンションギャラリー room38 / 高知）、2019～20年「坂崎隆一展 裏を返せば」（坂本善三美術館 / 熊本）



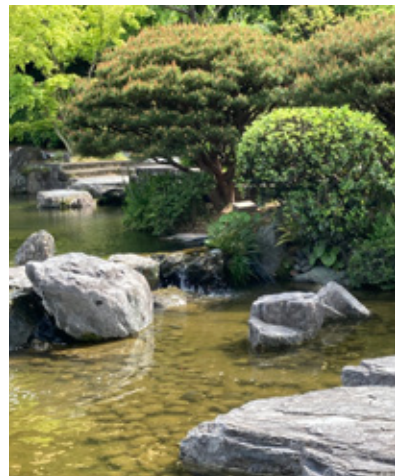
準備

PREPARATION

石橋文化センター訪問

4月21日(金)
初めての訪問

園内は自然にあふれ、幅広い年代の人が憩いの場として活用していました。また、車椅子利用者も多くいて、車椅子に焦点を当てた企画にしたいと考えるきっかけになりました。



6月30日(金)
坂崎さんとともに園内下見

茶室をどこに設置するか決めるため、坂崎さんとともに園内を下見しました。あいにくの雨でしたが、園内をじっくり見てまわり、話し合っ候補地をいくつかに絞り込むことができました。



9月19日(火)
車椅子で園内下見

和田さん、坂崎さんと打ち合わせをした後、車椅子で園内を下見して見るようになりました。傾斜のある道で思うように進めなかったり、ちょっとした段差でも引っかかりました。また、坂道を登るには結構な力を必要とし、腕が疲れました。車椅子で移動することの大変さがよくわかりました。



和田さんアトリエ訪問

5月19日(金)

和田さんのアトリエにて、和田さん、坂崎さんと打ち合わせをしました(坂崎さんはオンライン参加)。今回の「障碍の茶室」のテーマをどうするか、今後、どのような流れで進めていくのかなどを話し合いました。打ち合わせの後、和田さんにお茶を振る舞っていただきました。



8月27日(日)

再び和田さんのアトリエを訪れ、学生が考えた今回のプロジェクトのコンセプトを確認していただきました。また、お茶会に必要な道具を教えていただきました。



7月21日(金)
芥川龍之介展リサーチ

同時期に開催される「芥川龍之介と美の世界」展と絡めた企画にしたいと考え、この展示を担当する学芸員さんにお話を伺いました。展示品は原稿や読むものが多いので、展覧会担当学芸員からは、車椅子を利用される方にも鑑賞しやすいような展示を心がけたい、というお話もありました。

8月17日(木)
キックオフミーティング

今回のプロジェクトの関係者が集まり、プロジェクト内容や進捗状況を報告しました。関係者の皆さんからさまざまな意見をいただき、プロジェクトの方向性がより明確になりました。

11月1日(水)
内覧会

茶室の前でプロジェクト内容の紹介を行い、参加者の方に「障碍の茶室」を体験していただきました。実際にお点前をしてみると緊張のため手が震えたり、作法を忘れてしまったりとうまくいかない部分がありました。本番に向け、改善点を見つけることができました。



9月19日(木)、22日(日)
10月30日(水)、31日(火)
スタッフ説明会

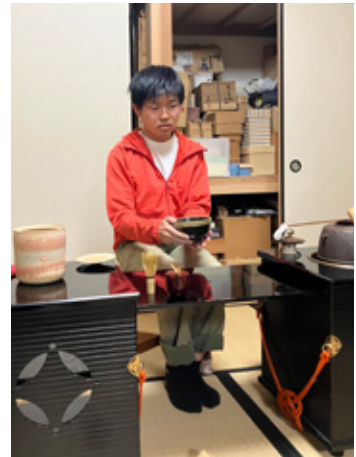
学生メンバー3名では人員が足りないため、スタッフを募集したところ、6名の学生が集まってくれました。そこで、集まったスタッフに対面とオンラインの2度に分けてプロジェクトの内容を説明し、さらに2回、当日の動きの説明会を行いました。

10月3日(火)
茶道部見学

学生メンバーはお点前の経験がないため、作法を学ぶべく、佐賀大学の茶道部の活動を見学しました。また、茶道具を借りられるか相談しました。

10月31日(火)
茶道部見学

各自の練習だけでは不安が残ったため、作法の中でも特に重要なふくさ捌きとお茶の点て方を指導してもらいました。また、借りる茶道具を決定し、車に積み込みました。





本番

IMPLEMENTATION

11月3(金祝)・4(土)・11(土)・18(土)・19日(日)

- 時間 11:00 ~ 16:30
- 場所 茶室：睡蓮とバラの庭
- 受付 「カフェ & ギャラリーショップ 楽水亭」前

今回は石橋文化センターアートフェスティバルに合わせ、1日に6回のお茶会を5日間で30回ほど行いました。参加者は、車椅子の操作に苦労しながらも、学生や和田さんが点てられたお茶やお菓子を味わい、非日常を楽しんでいました。

「障碍の茶室Ⅷ -河童の庭-」

11/3(金), 4(土), 11(土), 18(土), 19(日)

※タイムスケジュール※



1

受付

受付は園内の「カフェ & ギャラリーショップ 楽水亭」前で行った



2

お面づくり

子供から大人まで自由にお面をつくってもらう



3

園内を車椅子で移動

受付から美術館に移動し、「芥川龍之介と美の世界」展を車椅子に乗ったまま鑑賞してもらう。その後、お茶室まで移動してもらう。
(受付からお茶室までは車椅子で約10～15分)



4

お茶会開始

参加者の方とコミュニケーションを楽しんだ



参加者が作成したお面が飾られた壁。河童以外の妖怪もいて個性が溢れている



うつわについて

福岡の陶芸家伊藤明美さんがつくられたお茶碗を使用しました。握力の弱い方や子どもでも持ちやすいように取っ手がついています。



お菓子について

お出ししたお茶菓子は、久留米市田主丸町にある和菓子屋「あけぼのや」の名物、「河童のへそ」です。古くから観光客のお土産としてだけでなく地元の方のお祝い事にも重宝されています。



車椅子について

今回使用した車椅子は、株式会社さきさく工房より6機種、全8台お借りしました。軽量でコンパクトなものやクッションが効いて座り心地のよいもの、短距離の移動用から身体状況に合わせて調整のできる多機能型など、さまざまな機種を用意していただきました。



SNS 発信

Instagram にて 2023 年 10 月 14 日より更新開始。投稿やストーリー投稿を SNS 運営係の学生が行いました。準備中の様子、イベント当日の様子などを学生目線での新たな気づきや感じたことと共に投稿しました。



河童面

KAPPA MASK

妖怪のお面づくりをプロジェクトの一つとして実施しました。自分がもし河童だったら、他の妖怪だったらと、様々な妖怪を想像しながら固定観念に囚われない自由さを大事に作っていただき、個性的な妖怪に扮してお茶会に参加していただきました。

① 作者の氏名 ② 作者の性別 ③ 作者の年齢 ④ 妖怪名 ⑤ 妖怪の性格



① 范高偉 ② 男 ③ 31
④ 河童 ⑤ かわいい



① 大和陽一 ② 男 ③ 60代
④ カッパ ⑤ なし



① いさこ ② 女 ③ 40代
④ ちょこ ⑤ 寝るのが好き



① 樋口理恵子 ② 女 ③ 50代
④ カッパ ⑤ 気まぐれ



① 辺見弘 ② 男 ③ 62
④ へのもへじ ⑤ もじもじします



① かりん ② 女 ③ 27
④ 花子 ⑤ ゆかい



① ごっちゃん ② 男 ③ 7
④ くるっば ⑤ かわいい



① 次松大史 ② 男 ③ 45
④ ベトベトさん ⑤ 夜道で歩いてると足音がついてくる。振り返ると「お先にどうぞ」と言い、とおり過ぎていく。



① 高田幸 ② 女 ③ 34
④ カッパっ子 ⑤ 気まぐれ



① 千豊ゆきほ ② 男 ③ 2
④ 近所のかっぱ。 ⑤ 楽しいこ
とが大好きでやきとりが大好き。
きゅうりは苦手。



① 遠藤たら子 ② 女 ③ 54
④ たら子 ⑤ 人見知りだがそう
見られない。



① 大和育子 ② 女 ③ 50代
④ 一反モメン ⑤ なし



① 三上そう太 ② 男 ③ 10
④ かっぱ ⑤ 穏やか



① 尚史 ② 男 ③ 40代
④ カッパン ⑤ なし



① 井上則行 ② 男 ③ 70代
④ 河童 ⑤ ごく普通のオヤジ



① 那須祐実 ② 女 ③ 21
④ わんわん ⑤ 人々を鬼あの
形相で慈愛のまなざしで見ている。



① 井上摩耶 ② 女 ③ 21
④ かっぱ丸 ⑤ のんきで深く考え
ないかっぱ!



① 岩村菜々子 ② 女 ③ 24
④ 笑顔のかっぱ ⑤ いつも笑っ
ています。



① つぎまつちぐさ ② 男 ③ 10代
④ ひとつめこぞう ⑤ めがねが
おきにいらなげんきなこぞう。



① 松枝奈緒 ② 女 ③ 28
④ ヤマグチさま ⑤ 明るく元気な子



① 草野可凜 ② 女 ③ 27
④ 草ガッパ ⑤ なし



① 中村香織 ② なし ③ 40代
④ たぬこ ⑤ たぬきの妖怪



① 坂井存 ② なし ③ 後期
④ zon ⑤ 己がカッパに成る



① そうま ② 男 ③ 4
④ にじ ⑤ 元気いっぱい



① みつき ② 女 ③ 3
④ おばけ ⑤ げんきなおばけ



① 井野薫 ② 女 ③ 61
④ からすてんぐかっぱー ⑤ 金魚を
大切にしている実は優しい。



① やまもとみすず ② 女 ③ 17
④ くるっぱ ⑤ 子どもが好き



① 松尾遥希 ② 男 ③ 9
④ こうき ⑤ やさしい



① キョン ② 女 ③ 60代
④ キョントロー ⑤ おっちょこ
ちよい



① イダナツコ ② 女 ③ なし
④ カッパ ⑤ 可愛い



① 中島珠恵 ② 女 ③ 40代
④ 墓地キタロウ ⑤ 暗い



① 松本彩花 ② 女 ③ 20代
④ 一反もめん ⑤ ゆるい



① 川浪千鶴 ② 女 ③ 60代
④ キバみい ⑤ 化猫 長く生きた
黄ばんだ白ねこ



① かっぱ太郎 ② 女 ③ 40代
④ かっぱ花子 ⑤ 恥しがり…



① 深山はおん ② 女 ③ 50代
④ 今日のワタシ ⑤ う~~~~
~~~~!!



① KAZU ② 男 ③ 64  
④ KAZU ⑤ 私です。



① 豊福麻子 ② 女 ③ 49  
④ マノン ⑤ おっとり



① 武藤祐美子 ② 女 ③ 60  
④ ムトウアマビエ ⑤ 人の迷惑を  
考えず、親切にしようとする。



① のまはるあき ② 男 ③ 20  
④ ユウキ ⑤ ほん放



① 大和あさ子 ② 女 ③ 40代  
④ (なし) ⑤ ぺこちゃんみたいに、  
甘い食べるの好き。



① 田島武 ② 男 ③ 20  
④ 魚人君 ⑤ つよい



① 飯田日菜子 ② 女 ③ 21  
④ ミドリのカップ ⑤ ネムイカップ



① 河塚彩和 ② 女 ③ 21  
④ ノリノリ ⑤ 音楽を聞いてたら  
ノリノリになっちゃうよかい。



① 花田さん ② 男 ③ 50代  
④ 花田さん ⑤ いつもオレンジ



① 上智寛 ② 女 ③ 20代  
④ キャッパ ⑤ チャライイキリがち



① 飯田日菜子 ② 女 ③ 21  
④ ピンクのカッパ ⑤ やさしい  
カッパです。



① 高取英地 ② 男 ③ 20代  
④ タロウ ⑤ 臆病



① あやか ② 女 ③ 6  
④ とかげ ⑤ ほんとうきょうりゅう



① 次松夏希 ② 男 ③ 6  
④ ナブスタブルーク ⑤ やさしい



① な ② 女 ③ 6  
④ しろくま ⑤ さむがり



① ぼく ② 男 ③ 3  
④ ぶどう ⑤ あばれんぼう



① こうへい ② 男 ③ 5  
④ はーちゃん ⑤ 元気いっぱい



① ゆきやくん ② 男 ③ 3  
④ ほのかちゃん ⑤ 可愛いものが  
好き



① ほのかちゃん ② なし ③ 5  
④ いったんもめん ⑤ いたずら好き



① 前園喜代子 ② 女 ③ 74  
④ ゆうカッパ ⑤ マイペースです



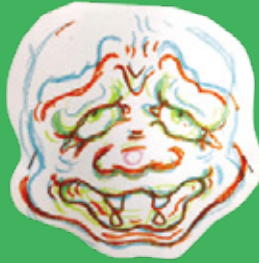
① 飯尾錬 ② 男 ③ 8  
④ かっぴー ⑤ 面白い 明るい  
うるさい やさしい



① 仲山昌美 ② 女 ③ 2  
④ しょうくん ⑤ 元気いっぱい  
かっぴー



① 牛島咲希花 ② 女 ③ 10代  
④ 茶之助 ⑤ 物知り、なんでも  
食べる。



① 那須佑実 ② 女 ③ 20代  
④ どんぼ ⑤ なんかぼけとる



① なし ② なし ③ なし  
④ なし ⑤ なし



① 今里果鈴 ② 女 ③ 20  
④ 鳥天狗の炎天 ⑤ 時空を超えて  
人をさらったり、助けたりする。



① 和田千秋 ② 男 ③ 60代  
④ 河童の川流れちゃん ⑤ 口ぼっ  
かり



① 佐古野瑞穂 ② 女 ③ 20代  
④ のぼぼ ⑤ いつもポーッとして  
いる



① 佐古野瑞穂 ② 女 ③ 20代  
④ にゅーとらる ⑤ 特徴がない  
のが悩み



① なし ② なし ③ なし  
④ なし ⑤ なし



① なし ② なし ③ なし  
④ なし ⑤ なし

## 関係者コメント

STAFF COMMENT

### アーティストコメント

「障碍の茶室」シリーズは、障碍を持つ人と持たない人の間を繋ぐ、プラットフォームを目指して構想されました。毎回、場所の特性に合わせたバリアフリーの茶室を造って、そこでお茶会を行います。今回で8回目の「茶室」ですが、前回から、学生さんたちとのコラボレーションを始めました。茶会のテーマ・コンセプト作りから、運営も担当してもらっています。学生さんたちには、「お茶会は楽しく、コンセプトは真面目に」とお願いしたのですが、こちらの期待以上に真面目で楽しいお茶会になったと思います。参加された方々も、おいしいお茶と、楽しい車イス体験が出来たのではないのでしょうか。

和田 千秋

久留米市美術館にはこれまでもよく伺っており、特に2Fの展示室の途中にある休憩スペースから眺める池の景色が好きでしたが、今回の企画を計画してくれた佐賀大学のみなさんのロケーションの選定のおかげで、その池の向こうに広がる公園の素晴らしい環境を知ることができました。茶室を制作した空間には「蓮の池」があって、その全景を借景として使わせていただきましたが、池に流れ込む水の音が茶室の壁面で反響して、思いがけなくとても良い演出になっていました。これまでの障碍の茶室に佐賀大学のみなさんのアイデアを付加した企画になりましたが、茶会に参加してくださったみなさんに素敵な機会や時間を提供できてたようで良かったです。

坂崎 隆一

### 佐賀大学の情熱に心惹かれて

佐賀大学は石橋文化センターアートプロジェクトに初年度から8年連続参加し、これまで「ワラスポ」「水族館」などのテーマや、リサーチ型作品などいつも多面的に挑戦している印象があります。今回は『障碍』というプロジェクト初のテーマでしたが、車椅子と一緒に茶会に参加し楽しく会話することで、他者と心が溶け合う温かいプロジェクトだと感じました。亭主を務めた学生は、茶会開催後は明るく自信に満ちた表情に変わっており、今後の更なる活躍を楽しみに思います。最後に、ご協力いただきました全ての方に心から感謝申し上げます。

(公財) 久留米文化振興会 石橋文化センターアートプロジェクト事務局 松枝奈緒

### スタッフコメント

今回、河童のお茶会に参加することができてとても楽しく良い時間を過ごすことができました。車椅子に乗ることは初めてで、方向転換が難しく全然前に進めなかったけれど、進むたびに嬉しくて楽しくてその先でお茶を楽しむことができ、達成感があって充実した時を送ることができました。ありがとうございました！

井上摩耶

初めて車椅子に乗って茶室まで行きました。いつもより視線の位置が低くなることで、見える景色が全然違うことに驚きました。少しの傾斜でも車椅子の人にとっては負担になるのだなと知りました。お点前も初めて体験しましたが、とても美味しいお抹茶とお菓子でした。

今里果鈴

私は茶道部に所属していますが、人前でお点前をするのも車椅子に乗るのも初めてだったため、とても緊張しました。しかし、参加者全員が車椅子を使い妖怪のお面をつけるという状況は、終始和やかな雰囲気段々と自然に振る舞うことができました。貴重な体験になったと思います。

牛嶋咲希花

お茶会に参加して、お茶を飲んでお菓子を食べるだけなのに、茶室という空間が言葉を交わさなくても不思議と人と人を繋いでくれる気がしました。また、車椅子に乗ることで、普段感じることのない段差の恐怖や目線の低さを感じ、その感覚がその茶室にいる人との奇妙な一体感を感じることができ、とても面白かったです！

河塚彩和

実際に車椅子に乗ってみてまず、操作の難しさに驚き、体験してみる重要さに気がきました。お茶会では苦手だと遠ざけていたお抹茶を初めて美味しく頂く事ができ、とても嬉しかったです。今回この企画に参加して、やってみないとわからない事だらけだと痛感しました。

佐古野瑞穂

茶室と車椅子どちらも触れたことがなく、どこか私と別世界のもののよう感じ、もやもやとした（※ネガティブな要素はない）壁が存在していました。しかし、参加してみるとスッとそれは消えてなくなりました。車椅子は特別なものではなく日常生活用具だから、スッと違和感なく私に馴染んだのかなと思いました。とても楽しかったです！

那須祐実

## 学生コメント

今回のプロジェクトを通して、多くの気づきや経験を得ることができました。お点前や呼び込み、参加者の方々とコミュニケーションが特に難しく、毎回反省点を見出し、改善するため試行錯誤をしていきました。また、車椅子については、実際に乗ると小さな段差や傾斜に苦勞し、他の来園者から感じる視線や言葉に少し敏感になるという体験もできました。この経験や気づきは今後の人生においても大事なものだと感じており、参加していただいた方々にとってもそうであることを願っております。

飯田日菜子

今回のプロジェクトを通して、さまざまな収穫を得ることができました。車椅子は初めて乗りましたが、乗ってみると操作がとても難しくなかなか進めませんでした。少しの段差や傾斜が進行の妨げになることは体験しないと分からない気づきでした。また、プロジェクトを遂行する中での道具の手配やスタッフの確保、当日の来園者へのアピールなど初めてのことで反省と改善の繰り返しとても苦勞しました。ですが、この苦勞を学生のうちに経験できたことは自分の成長に繋がる大きな出来事になったと感じています。

上智寛

今回のプロジェクトでは、多くの経験を得ました。車椅子については、少しの段差でも引っかかり、坂道では結構な力が必要で大変だと感じましたが、意外とすぐに感覚をつかめました。しかし、お点前はそうはいかず、練習ではうまくできても人前では緊張して作法を忘れて、お茶をこぼしたりしてお茶会を楽しむどころではありませんでした。もっと頑張らなくてはと思いましたが、和田さんから「お客さんに楽しんでもらうことが一番大事だから多少は間違えてもいい」というメッセージをいただき、肩の力が抜けてお茶会を楽しめるようになりました。初めてのことでうまくいかない部分もありましたが、多くの人に車椅子の大変さとお茶会の楽しさを感じていただくことができよかったです。

高取英地

## エンタメがアートに変わるとき

2016年4月に開設された佐賀大学芸術地域デザイン学部では3年生の必修科目として「3年次コア科目」がある。約110名の3年生が10～15クラスに分かれ、実技の学生とマネジメントの学生とが協働しながら地域での何らかの実践活動に取り組むもの。2023年度、私の担当クラスでは「久留米市・石橋文化センターにおけるキュレーション実践」として、ゲスト・アーティストと学生との協働によるアートプロジェクト実践に取り組んだ。

活動の舞台となる福岡県久留米市の石橋文化センターでは毎年11月「石橋文化センターアートフェスティバル」が開催されており、私たちの活動は同フェスティバル内の「大学生等による若手アーティストへの創作支援プロジェクト」および「市民創作体験プロジェクト」の枠にて実施された。

2023年春先に学生と現地を下見した。何人かの車椅子の高齢者が介護職員とともに園内散策していた様子が印象深かった。石橋文化センターは株式会社ブリヂストン創業者石橋正二郎によって市に寄贈された施設。足袋製造にルーツを持つブリヂストンはゴムタイヤ製造で大きく成長し、昭和・平成の人々の移動を支え続けた企業であることから、本センターにて令和以降の社会における車椅子の可能性を考えることには意義があると感じられた。

福岡を拠点に車椅子でのお茶会《障碍の茶室》を展開している和田千秋氏・坂崎隆一氏に相談し、参加の承諾を得た。久留米での実践にあたり学生がいくつか考案したアレンジプランの中から和田氏・坂崎氏と協議の末「河童の庭」とのテーマに着地した。「河童」はフェスティバル会期中にセンター内の久留米市美術館で開催される『芥川龍之介と美の世界 二人の先達—夏目漱石、菅虎雄』展をふまえ、芥川が「河童」を主題とした小説や絵を遺していることや久留米近隣に広く伝わる河童伝承に由来し、「庭」は茶室の設置場所「睡蓮とバラの庭」に由来する。人間社会を外から眺める「河童」の視点に、障害者・アウトサイダー・マイノリティの視点をなぞらせるものであった。

実際の活動では、河童のお面作り、車椅子での芥川展鑑賞、車椅子での茶会体験、と手順が盛りたくさんなことや、お子さんの参加が多かったこともあり、学生は運営に手一杯となり、必ずしも本プロジェクトのコンセプトを参加者や協力スタッフに十分に伝達できたとは言い難かった。とはいえ、民話や昔話、先人の教訓などの多くは、ユーモアやナンセンスの演出を伴い、親しみやすく配慮されるものだろう。いったんは気軽に楽しまれ、消費され、忘却されてもなお、何かの拍子に時間差で核心部分のシリアスさに触れるとき、そこに隠されたメッセージは時限爆弾のようにより強く私たちの心に突き刺さる。そのときエンターテインメントはアートへと生まれ変わる。

花田伸一（本プロジェクト監修 / キュレーター / 佐賀大学芸術地域デザイン学部准教授）





## 謝辞

本プロジェクトおよび記録集の制作にあたり下記の方々にお世話になりました。  
この場を借りましてお礼申し上げます。

佐賀大学茶道部

佐賀大学芸術地域デザイン学部西洋画専攻

アンダーソン依里 / 高取裕一 / 高取タ子 / 井上摩耶 / 今里果鈴 / 牛嶋咲希花 / 河塚彩和 / 佐古野瑞穂 / 那須祐実 (順不同)

## 【アートプロジェクト】

「障碍の茶室Ⅷー河童の庭ー」

アーティスト：和田千秋+坂崎隆一+佐賀大学芸術地域デザイン学部

実施日：2023年11月3(金祝)、4(土)、11(土)、18(土)、19日(日)

会場：石橋文化センター

主催：(公財)久留米文化振興会

車椅子：株式会社さきさく工房

茶菓子：河童のへそ本舗 あげぼのや

監修：花田伸一(キュレーター / 佐賀大学芸術地域デザイン学部准教授)

## 【記録集】

『障碍の茶室Ⅷー河童の庭ー 記録集』

編集・執筆 佐賀大学芸術地域デザイン学部3年 飯田日菜子、上智寛、高取英地

発行：佐賀大学芸術地域デザイン学部

レイアウト：山口恵美

写真：長野聡史(表紙、p.10、11(中段右を除く)、12(上段右下2つを除く)、13上・中左、23)

監修：花田伸一(キュレーター / 佐賀大学芸術地域デザイン学部准教授)

印刷：株式会社グラフィック

発行日 2024年1月31日(水)